

話合いの場があることにより、各種支援事業を効果的に活用し 地域農業の維持、発展に繋げている事例

(鹿児島県さつま町^{くきの}柘野区)

中山間地域 人・農地プラン

地域の状況

町では、従来から「地域づくり活性化計画」を作成し、産業振興を図っており、公民館区単位(20区)にそれぞれの地域振興を検討する場として「〇〇区の農業を考える会」を設置。

柘野区は、町の北部に位置し、2集落で構成。主な生産物は水稻、茶等。

農業者の高齢化が年々進行し、後継者不足による担い手の減少や耕作放棄地の増加が懸念されている。



取組内容

- 柘野区では、平成22年度に「地域づくり活性化計画書」を策定し、様々な分野について改善目標(方針・対策)と具体的実践計画を掲げている。平成23年度に「柘野区の農業を考える会」を設置。
町はJA・県と共に「人・農地プラン作成(見直し)推進チーム」を編成し、「考える会」の話合いをサポートし、プラン作成(見直し)を推進。
- 「考える会」は、年2回開催し、地区内での様々な課題、対応策等を話し合う場として定着。地区の農地利用最適化推進委員等が参加を呼びかけ、公民館長が中心となり話合いをコーディネート。
- 「考える会」で、人・農地プランの「今後の地域農業のあり方」について話し合い、農地中間管理事業や農地中間管理機構関連農地整備事業の活用についても検討が行われている。
- 「考える会」で話し合って決めることが慣習となっており、ひがん花まつりの開催や農地の維持管理作業を住民総出で行う等、地域が一体となって、農地と農業を守っていくという意識が醸成されている。
- 「地域づくり活性化計画書」では、多面的機能支払交付金や中山間直接支払交付金の活用等も、基盤整備の方針・対策として位置付けており、「考える会」のメンバーで話合いを行っている。

成果

「考える会」を核として、日頃より今後の地域農業のあり方等が話し合われており、実質化されたプラン策定に繋がっている。

人・農地プランの合意形成の中で、農地中間管理機構関連農地整備事業や水利施設等保全高度化(高収益作物導入促進型)事業、多面的機能支払交付金等の各種事業の活用についても検討が行われ、国等の支援策が効果的に活用されている。

